

東武伊勢崎線竹ノ塚駅付近の鉄道立体化を求める要望書

先の3月15日、東武伊勢崎線竹ノ塚駅構内第37号踏切において、4名の方が死傷するという極めて痛ましい事故が発生いたしました。かねてから踏切の安全対策、解消策を区としても様々な角度から検討してまいりましたが、今日に至っても解決に至らず、このような大事故が発生したことは痛恨の極みです。

当該踏切は「開かずの踏切」として知られ、その解消は地域の永年の悲願です。昭和54年には8,089名の署名とともに足立区議会に対して請願書が、平成13年には53,929名の署名とともに足立区長に対して要望書が提出されております。

これを受けて、区としても平成元年度から3年度にかけて、学識経験者や国、東京都、鉄道事業者の協力を得て調査委員会を設置し、鉄道立体化の計画を検討いたしました。しかし、多額の事業費がかかるなど、事業化には至りませんでした。

また、平成13年には東京都、鉄道事業者の協力を得て検討会を設置し、問題解決に向けて検討を続けてまいりました。平成16年には東京都が策定した踏切対策基本方針に鉄道立体化の検討対象区間に位置付けられましたが、やはり解決の目途は立っておりません。

都内をはじめ全国には、交通のボトルネックとなっている踏切が多数あることは承知しております。

しかし、今回事故の発生した踏切は、1時間のうち1分ないし2分しか開かない、文字どおりの「開かずの踏切」です。横断長も33mと大変長く、歩行者の安全な通行は困難です。

また、駅付近で鉄道の東西を車が行き来できる唯一の道路であり、駅前商店街を形成するなど地域にとっては極めて重要な道路です。

区としても、これまで踏切の拡幅を行うほか、鉄道事業者の協力を得て駅舎にエレベーター等を設置し、コンコースの自由通路化を図ってまいりました。しかし、抜本的な解決策は鉄道立体化しかないと考えております。

区では竹ノ塚駅周辺を、幅広い区民を対象とした商業・業務、住宅などの機能の整備を進める「地域拠点」と位置付けております。区北部地域の拠点として、また北の玄関口として、鉄道立体化と合わせた都市機能の更新、地域商業の活性化を図っていきたくと願っております。

是非とも当区ならびに竹ノ塚駅付近の実情をご理解いただき、東武伊勢崎線の鉄道立体化をご支援いただきたくお願い申し上げます。

平成17年4月7日

足立区長 鈴木恒年

国土交通大臣 北側一雄様